

第2回 知っておきたい写真著作権 & 肖像権セミナー・京都

公益社団法人日本写真家協会（JPS）/一般社団法人日本写真著作権協会（JPCA）共催事業

2023年6月25日(日)

場所 京都市勧業館「みやこめっせ」大会議室

〒606-8343 京都府京都市左京区岡崎成勝寺町 9-1

参加無料（定員 120名 / 当日受付若干名）

予約方法 QRコードからお申込下さい。メールの方は件名に「写真著作権セミナー・

京都参加申込」と明記の上、氏名、連絡先（TEL、メールアドレス）を
明記して下さい→ info@jps.gr.jp

※セミナーは諸般の事情により変更、中止になる場合があります。

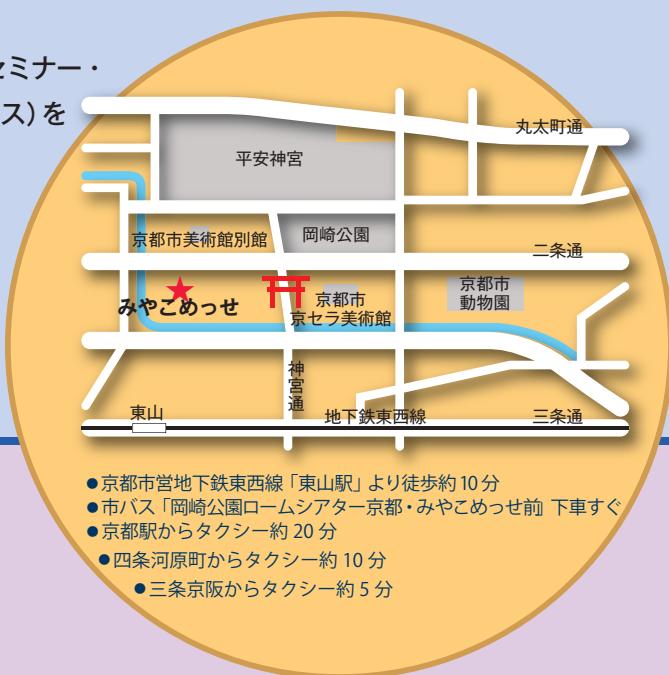
最新情報は JPS の HP にてご確認下さい。

参加者特典 JPS 展入場券をお一人につき一枚進呈
(セミナー受付にて当日お渡します)

司会：榎並悦子（写真家 / 日本写真家協会正会員）



参加申込



- 京都市営地下鉄東西線「東山駅」より徒歩約 10 分
- 市バス「岡崎公園ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ
- 京都駅からタクシー約 20 分
- 四条河原町からタクシー約 10 分
- 三条京阪からタクシー約 5 分

13:00~16:00(受付開始 12:30) (講演&パネルディスカッション)

会場内にて作家の写真集販売、サイン会を行います

溝縁ひろし

（みぞぶち ひろし）写真家／日本写真家協会正会員



©Hiroshi Mizobuchi

1949年、香川県に生まれる。千葉工業大学卒業後、京都の会社に就職のち、写真スタジオ勤務を経てフリーの写真家になる。1980年、写真事務所「PHOTO-HOUSE・ぶち」設立。ライフワークとなっている京都・花街を中心に、京都の四季や祭事をはじめ、四国八十八ヶ所、西国三十三所、坂東、秩父の札所などのテーマにも取り組む。海外取材やドイツはじめ海外写真展などで、国際交流も行っている。『京都の花街』、『花街と芸妓・舞妓の世界』、『日本百觀音靈場』、『昭和の祇園』など多数出版。

「昭和の祇園」

祇園の舞妓さんの魅力に引き込まれ、昭和48(1973)年～昭和64(1989)年まで、祇園甲部で撮影したモノクロ写真より。当時の芸妓・舞妓さんを始め、花街の町並みや生活、風俗そしておもてなし文化などを取材撮影した作品より。また今年の1月、美術館「えき」KYOTOで写真展を開催した時に聞いた当時の話や、花街撮影50年を振り返る。

ハービー・山口

（はーびー・やまぐち）写真家／日本写真家協会正会員



©Herbie Yamaguchi

1950年東京都出身。23歳でロンドンに渡り10年を過ごす。現地の劇団で役者を経験。折からのパンクロックのムーブメントの中、ロンドンの姿を活写し代表作となった。帰国後もアーティストから市井の人々の素顔を撮影している。幼少期に患った病歴の末、写真のテーマを常に「生きる希望」としている。写真の他、エッセイ執筆、ラジオのパーソナリティー、さらにはギタリスト布袋寅泰には歌詞を提供している。主な著作に『LONDON AFTER THE DREAM』、『代官山17番地』、『1970年二十歳の憧憬』などがある。

「街でスナップを撮りにくい時代だけど、やはり私は人物を撮りたい」

スナップが撮りにくい時代と言われます。人物を撮るしか興味のない私は、出来るだけ相手の了解を得る様にしています。しかし一度声をかけると、その方のリアリティが失われてしまうこともあります。その反面、会話をしたことで意外な幸運に繋がったことがいくつかありました。いくつかの事例を挙げながら、人物を撮る意味を語りたいと思います。

パネルディスカッション 溝縁ひろし × ハービー・山口 × 棚井文雄

街中で撮影するためのマナーや公表する際のルールを解説。これから時代にストリートスナップを撮り続けていくために必要なことを、溝縁ひろし氏、ハービー・山口氏とディスカッションします。



©Kohryu Matsuo

進行：棚井文雄（たない ふみお）写真家／日本写真著作権協会常務理事

東京工芸大学にて細江英公氏に学び、在学中より大倉舜二氏師事。独立後、「家庭画報」、「Wedge（新幹線グリーン車搭載誌）」、「レオン」での連載や、「フィガロ」、「ヴァンサンカン」、「別冊太陽」などで器、料理、リゾートの撮影を行う。中国、欧州での作品制作を重ね、パリ、ニューヨークなどで個展開催。文化庁芸術家研修員として作品制作。2005年に渡英後、ニューヨークに拠点を移し、10年に渡り活動。ストリートスナップを中心に世界各国で撮影を行い、フランス国立図書館、ニューヨーク近代美術館をはじめ欧米の美術館などに作品収蔵。著作権関連の著作として「ストリートスナップは死んだのか？I、II」（日本写真著作権協会 JPCA NEWS vol.11&24）、「以外と知らない写真の権利」「フォトコン」2021年1月～12月号がある。



JPS-HP

2023年6月25日(日) 京都市勧業館「みやこめっせ」大会議室

Herbie Yamaguchi



©Herbie Yamaguchi

ハービー・山口 (はーびー・やまぐち)

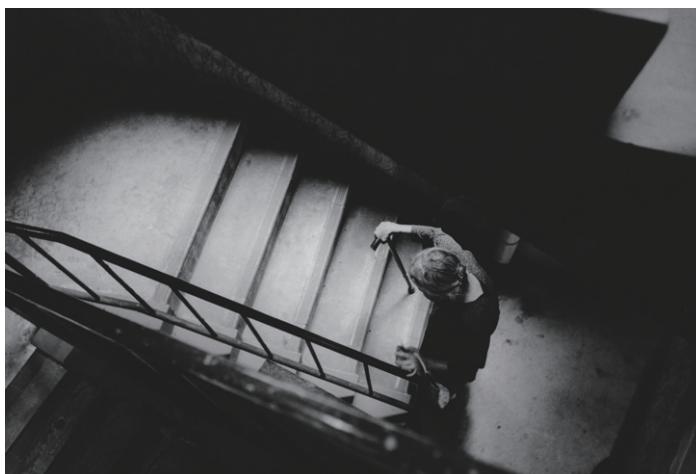
写真家／日本写真家協会正会員

「街でスナップを撮りにくい時代だけどやはり私は人物を撮りたい」

スナップが撮りにくい時代と言われます。人物を撮るしか興味のない私は、出来るだけ相手の了解を得る様にしています。しかし一度声をかけると、その方のリアリティが失われてしまうこともあります。その反面、会話をしたことで意外な幸運に繋がったことがいくつかありました。いくつかの事例を挙げながら、人物を撮る意味を語りたいと思います。



ミッセル ロンドン 1998



生きる 東京 2005

Hiroshi Mizobuchi

溝縁ひろし (みぞぶち ひろし)

写真家／日本写真家協会正会員

「昭和の祇園」

祇園の舞妓さんの魅力に引き込まれ、昭和48(1973)年～昭和64(1989)年まで、祇園甲部で撮影したモノクロ写真より。当時の芸妓・舞妓さんを始め、花街の町並みや生活、風俗そしておもてなし文化などを取材撮影した作品より。また今年の1月、美術館「えき」KYOTOで写真展を開催した時に聞いた当時の話や、花街撮影50年を振り返る。



©Hiroshi Mizobuchi



急ぎ茶屋へ



舞妓と白川女